2015 年度年報

公益社団法人　高知県自治研究センター

目　次

「2015 年度年報」の発行にあたって

１．はじめに　Ｐ　１

２．シンポジウム・セミナーについて　Ｐ　２

３．調査・研究活動について　Ｐ１５

４．組織運営について　Ｐ１７

５．2015 年度収支報告および監査報告　Ｐ１９

６．高知県自治研究センター2015 年度会員名簿　Ｐ２８

「2015 年度年報」の発刊にあたって

１．はじめに

2015 年度は、前年度よりスタートした連続シンポジウムである「少子化の流れに抗して（第 2 回～第 4 回）」、もう一つの連続シンポジウムである「3.11 東日本大震災から高知は学ぶ（第 5 回）」、哲学者・内山 節氏によるセミナー「主権は誰のものか」を開催した。

また、調査研究活動については、3 本の「調査研究テーマ」のうち「高知の介護保険地域ケアシステムの実態調査研究」については、2015 年 5 月 8 日までに回収したアンケート（要介護・要支援者 623 通、一般高齢者 2,529 通）の集約を、研究チームの座長でもある高知県立大学社会福祉学部田中きよむ教授に依頼した。その後、集約結果を基に、研究チーム会議を 4 回開催して内容の分析を行うとともに、どのような形で県民に公表するかについて議論を行った。他の調査研究テーマである「中山間地域における内発的発展地域産業モデル研究」および「高知市における中心市街地再生のための施策についての研究」については、具体の進展には至らなかった。

二つの連続シンポジウムは順調に企画・開催が出来ており、来場者が 50 人前後と少ないのが反省点としては残るが、毎回マスコミの取材もあり地元紙にて報道もされるなど内容については一定の評価が出来るものと考えている。一方で、3 本の研究調査活動の進捗状況が思わしくないのは、それぞれ事情等はあるものの、次年度に向けての大きな課題である。事務局としても、担当していただいている理事との協議と連携を強めながら具体的に前に進めていく努力がより一層求められている。

２．シンポジウム・セミナーについて

（１）まず、各シンポジウム及びセミナーについて概略を記すと、連続シンポジウム「少子化の流れに抗して」については、

〈第２回〉「島根にみる『田園回帰の地殻変動』」　2015 年 5 月 23 日（土）開催

〈第３回〉「若者はなぜ地方へと向かうのか」　2015 年 8 月 1 日（土）開催

〈第４回〉「若者の流出を止める『教育力』」　2016 年 3 月 12 日（土）開催

の３回を開催した。開催の企画にあたっては、当センター理事および外部識者による「企画会議」を事前に実施し、シンポジウムごとのテーマ設定や講師・パネラーの選定等について助言を受けながら、以降事務局で全体を構成することとした。各シンポジウムでの概要および参加者の感想は以下のとおりである。なお、当日の模様は、冊子様にまとめて当センターのホームページに収載してあるので、詳細についてはそちらをご覧いただきたい。

【第２回】2015 年 5 月 23 日（土）　於・高知商工会館

テーマ・島根にみる田園回帰の地殻変動

基調講演：藤山　　浩（島根県中山間地域研究センター研究統括監）

とりくみ報告：小笠原勝司（〈公財〉ふるさと島根定住財団総務課長）

鼎談：藤山　　浩

小笠原勝司

コーディネーター：畦地　和也（自治研究センター理事）

要旨：藤山氏によると、地方消滅の危機が指摘されているが諦めてはならず、毎年、地域人口の１％の移住者があれば人口は維持できるとの試算を強調。高知県と人口規模や地理条件が似通っている島根県は、移住・定住対策の先進県とされているが、近年は子育て世代の移住増により、離島や中山間地域などの『田舎の田舎』の約３割で４歳以下の子供が増えていることを指摘。また、人口維持には「移住」「流出防止」「出生率向上」の組み合わせが大事として、人口維持に繋がる「１％移住」は不可能ではないと述べた。さらに、移住受け入れのためには「農業と他の仕事で１人分の雇用をつくるような、合わせ技の雇用が重要」で「地域ぐるみで仕事をつくり、地域でできるだけお金を回すこと」を目指すべきと締めくくった。

※第２回については、参加者アンケートはとっていません。

【第 3 回】2015 年 8 月 1 日（土）　於・こうち男女共同参画センター「ソーレ」

テーマ・若者はなぜ地方へと向かうのか

基調講演：宮台　真司（首都大学東京・都市教養学部教授）

パネルディスカッション

パネラー：イケダハヤト（プロブロガー）

吉村　沙貴（高知県立大学文化学部）

宮台　真司

コーディネーター：東森　　歩（自治研究センター理事）

要旨：宮台氏は、近代化以降の日本社会の変遷に触れながら、地域社会や生活が空洞化していると指摘。地方を志向している若者が増えている背景には、（そうした空洞化を教訓に）若者の価値観が変化し、「親の言うことに左右されず、自分の人生を生きようとしている」のだと述べた。また、全国の地方自治体の約 5 割が「消滅の可能性がある」とする日本創生会議の提言を「いつも官僚が使うでたらめ。生き残りたければ、我々が差配する中央集権のシステムに組み込まれよ、さもなくば死という脅しで、絶対こんなことに乗ってしまってはダメ」と強く批判。「中央の巨大システムに頼らない地域の経済、包摂的な（懐の深い）社会を守り、存続させるよう考えなければならない」と訴えた。

《参加者アンケート》

①基調講演について

・今回来たのは、偶々だったのですが、自分の趣味に意外と合致した講演をきけて、ためになりました。楽しかったです。

・知的でおもしろかった。「若者が地方へ」の前段で終わってしまった感がある為、もう少し掘り下げてお聞きしたかった。資料「東浩紀」が「東浩記」になっています。

・性的退却や、生活世界と社会の空洞化のプロセス、日本の既成社会のでたらめさなど、本質に斬り込みつつ、分かりやすく語っていただき、とても面白かったです。

・内容が多すぎて、もう少しひとつのことを深く聞きたかった。わくわくメール調査の話を少し聞きたかった。

・地方への若者の流れが起きていることは理解できますが、現実問題として、高知県では若者の流出が続いており、この流れをストップする為の方策について聞きたかった。

・とても良かったです。

・普段、自分が漠然と感じるもの、嫌悪感を抱いているものに対して、言葉を与えてもらっ

た気がして面白かった。
・むずかしい表現ばかりで、理解に苦しんだ（理解できないことが多かった）。もっと実践的（可能な）内容を聞きたかった。
・地域づくりに係る中で心にかかっていた霧が少し晴れたような気がしました。
・イメージはできたが、話が難しかった。たとえ話でもいいので、具体的な対策を聞きたかった。楽しかったです。
・スピードが早く、理解が追いつかない所もあったが、全体として興味深い講演だった。社会の真実を見抜く事が大事だと多いに感じた。
・申し訳ありません。全て聞けませんでした。レベルの低い私には難しすぎました。
・社会科学的に物事を見ることは難しいけれど、大切。話自体は少々難しかったが、良い話だった。
・映画批評の復活を!!高知は映画文化があるので（自主上映等多いです）。上映＋批評で相乗効果があると思います。
・もっと「毒」を聞きたかったです。宮台真司氏は、意外にまともで紳士だった。
・思想、歴史、経済の流れが詳細で、理解し易くて良かったと思います。ただ、時間を急ぎすぎて説明不足の部分があったのは、残念だったと思います。
・長年、著書を拝読していた宮台先生にお会いできたので光栄です。性愛論や増田レポートについて、大変勉強になりました。
・中央に依存しない、社会の力で社会を回すような自治体を目指すということ、それが若者にとって魅力的な社会であるということ、若者としてすごく共感しました。
・プレゼンシートがあり、内容も分かりやすかったのですが、テーマと講演内容の論点がズレていたような気がします。もしかしたら内容がテーマとマッチングしているとは思いますが、若者が地方に向かう理由を明確に述べていなかったように思えます。しかし、若者の恋愛情情については興味深かったです。
・テーマにひかれて講演を聞きにきましたが、想像以上に具体的でざっくばらんな話の内容にひきこまれました。少子化の元は性活動、婚活活動を語るのは当りまえなのに、性の問題にふみ込まずに、少子化が解決できるはずがない。ただどうして少子化なのか、間違った解釈をしていたと気づきました。やはり子供の未来を摘んでいるのは、我々、バカ親世代なんだと。しかしこのバカ親を育てたのは、更にその上の世代。貧困のスパイラルならぬ、バカな考えのスパイラルということがわかった。
・結論、若者の地方回帰に期待すべきことに至る過程、現状、問題点、気が付いている点、真の狙いなどの分析により、ひとつの結論の出る構造的なものが良くわかった。個人としても声をあげるべきは積極的に参加し、逃げないこと。ただ単に国とか社会だけに頼るだけでなく、個人の責任も一義的には必要であることが十分わかった。

②パネルディスカッションについて

・自分自身は県外へ一度出ての出戻り組なのですが、移住者、定住者、県外の人間から見た高知のイメージというものがそれぞれ違っていて、自分の中の高知像を考え直す機会となりました。

・東京から高知、という地方志向のイケダハヤト氏。高知から高知という地元志向の吉村沙貴氏。ここに「高知から東京という都市志向」の人のいない違和感はぬぐえない。
反対の意見をもつ識者も交えなければ、ディスカッションとしての質を保障しきれないのではないか。ディスカッション内で吉村沙貴氏の双子のお姉さんの話が出たが、まさにその「地方→東京」「東京→地方」の考え方のギャップを掘り下げて欲しかった。謂ゆる「地方組」のそろったディスカッションでは、切り口が限定的すぎるのではないか。とはいえ、話の内容は興味深かった為、自分のニーズと合致しなかっただけかもしれない。
・資本主義経済の中でのビジネスの考え方と、地方の人、ものを守り育てていくスローフードの考え方あり方の相違を、宮台さんが峻別してくださったところがよかったと思います。
・イケダハヤトさんの話を聞いて、私も高知に引っ越して来た時に「高知っていいでしょ！」と一方的に言われ、決して今まで住んでいた所はどんな所だったかと聞かれなかったことを思い出しました。いなかが好きな方にとっては住みやすいかも。よそ者にとって土佐弁は古語みたいで、とても聞いていて面白いです。よく、この言葉知ってる？と土佐弁で言われてからかわれました。
・明確なテーマを設定せずにダラダラ話が続いて不快でした。もっとパネラーの方に話を振っていただきたかったです。
・３人とも非常に参考になった。車付きの住宅もやってみたい。高校生までにまちづくりの体験は大事（大学も高校もない町です）。ゴキブリの視点は共感した。
・緒々の世代や立場の方が集まられて、良かった。特に若い方の意見が聞けたことが良かった。
・コーディネーターが上手だった。
・おもしろかったです。ムカデが…。吉村さんのような考えの若い人たちがたくさんいると思います。まだまだ高知は楽しいです。
・視野、視点が広がった。ビジネスの裾野を広げていく、考える力、感じる力を感じた。
・体験談等も多く、学ぶ所の多いお話でした。
・スピード感というかテンポがいまひとつ。また、宮台氏は社会学（理論や思想・文化面）、イケダ氏はビジネス、吉村さんは素朴な体験談と、それぞれのリソースがバラバラすぎてチグハグな印象。話がまとまらない。
・東森氏のディスカッションの導き方は良かったと思います。
・いろいろとヒントになるお話をいただきました。ありがとうございました。外からの視点によって、県民が気づいていないような、魅力を知ることがやはり多いと思います。
・高知に出身でも在住でもない宮台先生、首都圏から高知にUターンしてきたイケダさん、生まれも育ちも高知の吉村さん、多くの会をコーディネートしている東森さん。このバランスが最高だと思いました。このパネルディスカッションを聞いて、高知の可能性を改めて感じることができました。それと同時に、それぞれやはり高知の感じ方が違うのだと思いました。
・実際に都会から移住してきたイケダ氏の言葉には説得力がある。もっと大ざっぱに高知を選んでいると思ったら、具体的に表現できている。いつも思うことだが、こういう外から

の人の、ほめ言葉が高知県人好きなのだ。
・イケダハヤト氏：高知へ移住してきた動機、家族のことなど熱っぽく語ってもらった。現在のブログの仕事を通じて、これから高知もビビットくる→そうかなあ。地元の人も同じ考えかなあー。でもそう言われると嬉しい!!　目標をもって取り組んでいる。吉村沙貴さん：地域に入っての活動。宮台真司先生：自分を高知へ呼んでくれるのは（５回も）リスキーなことである。

③シンポジウム全体について

・「お人よし」には生き辛い世の中になったなと思います。
・「若者はなぜ地方へ向かうのか？」というテーマについて、「若者」「なぜ」「地方」というフレーム一つ一つの掘り下げが薄いように感じる。
・宮台真司さんの考え方や著作を知らないコーディネーターだったことが（面白く有能でしたけれど)、このシンポジウムを危うくしてるかな～という印象。地方のこれからを考えるとき、経済優先グローバリズムと対極にある新しい時代の地域での食物、エネルギー、ケアの自給圏のビジョンを峻別しなくては、展望は拓かれないのではないかと思いました。
・テーマを明確にした方が良かったと思う。
・またこのような機会を設けていただきたいと思います。
・参加者に行政関係がいたか分からないが、彼らがもっと参加して学ぶべきだと思う。
・最後の「若者はなぜ地方へと向かうのか」のコメント（それぞれのキーワードに対するパネラーの方の意見等）がもう少し聞きたかったです。
・とてもおもしろかったです。
・全体的にバランス良く、面白かったです。時間が気にならなかったです。
・テーマ的には明るいはずなのに、全体的に暗い雰囲気であった。
・本日の講演自体の出欠自体を考えていましたが、皆様のお話を聞けて、学びとれて良かったと思います。
・長時間でしたが、あっという間のシンポジウムでした。このシンポジウムの内容やモチベーションが県民全体にできるだけ広がっていけばいいと思います。
・私は高知に大学進学のためにきた県外の者ですが、本当に高知はいいところです。何よりいいのは高知の人が高知のことを好き、と言えるところだと思います。地元の人がいいところだと本心から言えないようなところに若者が住みたいと思うはずがありません。この点はやはり高知の人に自信を持っていただきたいと思います。
・宮台氏の講義が終わった時点で、直接質問できる質疑応答の時間があればよかったのでは、と思う。
・宮台先生を講師に呼べる主催者がすごい。又、高知に来てくれる宮台先生にも感謝したい。宮台先生は、日本でもメジャーである先生ですが、実際目の前にして話を聞いて、自分の持っていたイメージと変わることはなかった。(宮台先生は論客)。県下の大学の学生とか、民間企業とか官公庁（学・民・官）などにも広くＰＲすべきではないか。聴講者はふえると思います（部屋を一杯に)。

２．今後、「少子化の流れに抗して」とのテーマで連続シンポジウムを行いますが、ご意見・ご要望があればお聞かせください。

・「少子化」？という感じでした。主題と副題のトーンの差。乖離が感じられる。一貫性をもっていただきたい。次回も楽しみにしております。引き続いて刺激的なシンポジウムをお願いします。お疲れ様でした。

・県外への若者（特に高卒時、県外の大学の入学時、大卒時）の流出に対する方策。

・すごくおもしろいシンポジウムでした。感想を書く時間を忘れるほど聞き入ってしまいました。次回も楽しみにしています。

・教育関連、子ども関連があればまた参加したいです。社会学関係であれば、古市憲寿氏の話も聞いてみたいです。

・今回の宮台先生のシンポジウムの様に、具体的で批判的でシビアな視点・意見を述べる先生を呼んで頂きたいです。館内放送の音を少し小さくしてほしかったです。宮台先生の言葉をききのがしてしまいましたから…。本日はありがとうございました。

・沖縄や隠岐之島など、少子化対策で成果をあげている自治体関係者から、現場の声を聞きたい。可能ならば、村木厚子さんの話も伺いたい。

・若者が地方へというが、どうしても子育て世代に入ってからという若者になっている。本当の若者（独身で、県外から移住を求めている）そのような人の意見を聞けるシンポジウムをしてほしい。

・少子化：一極集中、東京へ出ていくことが悪というとらえ方で物事を考えることは間違いであると思う。地元の子どもは高知に生まれて、育ち、進学して目的があって就職する。これも東京ありきであるという限定した考え方でなく、若者の目指す道であれば東京でも高知でもいいのではないか。高知を忘れて東京に行くのではない。一方、高知に住み、高知で就職する若者もいる訳で、個人の選択である。それぞれの個人の責任を果たすことで、豊かな社会に結びつけることであり、その中から新しい家族が生れ、成長していくものと思う。

【第 4 回】2016 年 3 月 12 日（土）　於・こうち男女共同参画センター「ソーレ」

テーマ・若者の流出を止める「教育力」

基調講演：岩本　　悠（島根県教育魅力化特命官）

パネルディスカッション

パネラー：高石　清賢（嶺北高校振興会会長）

岡村　凌兵（嶺北高校 3 年）

敷地那奈美（窪川高校 1 年）

岩本　　悠

コーディネーター：畦地和也（自治研究センター理事）

要旨：岩本氏は、急激な勢いで人口減少・少子化が進む離島である島根県隠岐諸島の海士町にある県立当然高校で「学校教育の魅力化」にとりくんだ経験を踏まえ、「学校の存続自体が実はその地域の存続と非常に直結した問題」であることを指摘。たま

たま出前授業で行った海士町で、高校の存続の地域の将来について強い危機意識を持っている住民に刺激を受け、それまでは「教育の標準化という点では都市部の方がチャンスがたくさんあり、地方にいると都市部との格差があったがいつまで経ってもその格差は埋まらない」と考えていた負のスパイラル構造を変えていくことの必要性を痛感。「刺激や競争がなく、チャレンジ精神のある若者ほど都会に出ていく構造を変える」ために、逆に全国から「島留学」で目的意識を持った子供らを募集する一方、（海士町の）地域の良さを見つける視点や発想を身に着ける教育を模索しながら、海士町は超人口減少、超少子高齢化、財政難という日本の縮図であり、それは見方を変えれば未来の最前線でたたかえるチャンスでもあり、「ここが変われば日本の未来は変わる」と、学校から地域の未来を変えていくシステムづくりにとりくんできたことなどを述べた。

《参加者アンケート》

①基調講演について

・講演の中で、たくさんの新しい視線（目のつけどころ）を教えていただいた。
　地域と教育のつながりが、これからも大事であることを教えられた。
　高校の持っている力・魅力にも気づかされました。
・テンポ良く、わかりやすくて、楽しい時間となりました。
　考えた事を実現する力が、素晴らしいと思いました。
　高知県の特使になっていただきたい。
・昨年、海士町へ視察に行く計画がありましたが、夏で海が荒れるので中止したのが残念に思いました。
　地域再生には、非常に魅力的な実践だと思いますので、もっと研究して是非やってみたい。
・聞くだけの受け身の講演ではなく、会場の人々とコミュニケーションをとるかたちの講演でした。地域づくりもこうしていらっしゃるのだろうなとよく分かりました。
・実践されている事なので、説得力があった。
・一度は聞きたいと思っていた方の話が聞けて良かった。
　やはり地域の本気度、これにつきる。
・情熱的で刺激を受けました。
　高知もこういう「よそ者」をお招きするのもありかなと思います。
・以前より、島前高校の取り組みに興味があったので、詳しいお話がきけて勉強になりました。地域づくりと学校（特に高校）は、なかなか相容れないもの、という面があるという

ところ、たしかにな…と思いました。それぞれで住み分けがされてきたというか…若者を育てるのは、機会の多い都会だ、という思いがありましたが、地域が変わることで、それが地域でも可能となるのだなと、少し希望が持てました。

・高校卒業以降、高知というフィールドで活動を行う中で、今回岩本悠さんの講演会が高知で行われると聞き、とても嬉しく思いました。岩本さんの講演で、また新たに見えてくる海士町の教育の姿があり、自分自身のモリベーションを上げることにつながったように感じました。

・単に話を聞くだけではなく、参加型なのが良かった。
岩本さんの話だけではなく、高知大の学生さんの話を聞けて良かった。
岩本さんのコーディネーター力は見習うべきであると思います。

・こういうお仕事をされている方がいるのさえ、存じ上げませんでした。
これから学校で何を大切に子どもたちと育んでいくか、共感する部分がとても多かったです。
赴任する学校の地域の魅力を考えるとわくわくしてきました。すばらしかったです。

②パネルディスカッションについて

・大変よかったです。高校生の意見には、心に残るものがありました。

・岩本さんを中心に話を転換してもらえると更に良かった。

・良かった。高校生を入れたのが良かった。

・コーディネーターの畦地さん、また岩本さんが、パネリストの意見をよく引き出していました。

・嶺北高校、窪川高校の２人の生徒の話を聞き、やはり私達大人の活動がポイントになるかな…。

・若い世代が、自分の頃よりずっとしっかりしていて、ビックリしました。頑張ってほしいです。

・高校生がパネラーとして参加していたのが、とても良かったと思います。自分より年下の子が自分たちの目線で感じていることを聞き、自分自身の刺激となりました。また、パネラーだけでなく会場まで問いが飛び交っていたことも興味深く、多様な視点の意見を取り入れることができました。

・今の小・中・高を含めて学力向上対策をやっていると「勉強ができること」が評価の対象になり、その子たちは県外の大学を目指して、そして都会に残るのだと思う。地域の子どもたちが高知市にある高校を目指し、そして県外の大学へいくという流れを止めないと、地域に子どもたちはとどまらないと思う。地域の高校を残すためには、学力向上対策をやめるのが一番だと思った。嶺北高校の岡村さんや、窪川高校の敷地さんのような子どもを育てたいのならば、もっと学校教育は考えることがあるのではないでしょうか。この２人のような子どもは学力向上対策では、絶対育たないと思う。

・本音がどんどん出ていて面白かった。
学校と地域をつなぐ事が今後の大きなテーマになるでしょう。
高校生の意見と体験を聞けたのは貴重だった。

誇りに思えるものをどう得てもらうか、それをどう促進していくかを考えていきたい。
・実際に教育、行政、学校、生徒いろいろな立場の方が、これからの教育を考えていけるシンポジウムになってとてもよかった。
私は教員をしているが、学校でこれから目指すべきもののヒントを多くいただいた気がしています。力が湧きました!!

③シンポジウム全体について
・講師の方にワークショップをして頂きたかった。
せっかくの機会なので、現場でどのように取り組んでいくのかを参加者に考えて欲しかった。
・高校生がしっかりした発言をしていて感心しました。
・非常に参考になる事が多く、今日は来て良かった。
・参加者が 100 人未満なのは、もったいないです。充実した内容なので、ネット中継を時間差で流して、辺地でも見れるようにチャレンジしてみてほしいです。
・参加してよかった。
学びと出会いがあった。
高石さんの発言した実行する人間を置き、何をするかということを大事にしていくことが必要だろう。
・大変よかった!!
こういう場にもっと教員が参加すべきと思った。
自分がよびかけなかったことに後悔しています。
シンポジウムが終わったあとに残って話される姿が会の“成功”を表していると思いました。

２．今後、「少子化の流れに抗して」とのテーマで連続シンポジウムを行いますが、ご意見・ご要望があればお聞かせください。
・「内田樹」氏の話を聞いてみたい！
・次回も呼んでください。
・集まったパネラー、視聴者は比較的、安定した立場の人々かと思います。なので、貧困家庭、障がい児、少年院などに関わる当事者の声も聞きたいです。
・とてもおもしろい、興味深いテーマ、内容で充実した時間だった。
ただ、参加人数が少ないのが残念と感じた。小規模で開くメリットもあるが、有意義でかつ誰にでもひびく内容であったので、多くの方に聞いていただきたいと感じた。
・小さい頃からの地域のおじさん、おばちゃんとどんな人間関係をつむぐのかが結果的に少子化の流れに抗うことではないでしょうか。地域がいごこちがよいところであれば、最終的にそこへ戻ってくるのではないでしょうか。岡村さんが最後に言った「本当の教育」とは学力向上対策ではないのです。岡村さんには最終的には地域へ帰ってきてもらいたいです。私はすべては地域の人との人間関係だと思います。それがあればいつもこころ、特にしんどい時に、原風景として地域のおじさん、おばさんの顔が出てくるのではないでしょ

うか？
・少子化の流れに抗するためには、都市部から若者に移住・定住してもらう必要があると思う。各地域がどういう取り組みをしているのかその成果と問題点などを学び合う機会があればよいのではないか。
・やはり、これからの社会のことを考えると、今日の会のように、みんなで子どもたちの教育のことを考えていくことは大切だと思いました。
いい会に参加させていただき大満足です。ありがとうございました。

（2）もう一つの連続シンポジウムである「3.11 東日本大震災から高知は学ぶ（第 5 回）」については、2016 年 2 月 20 日（土）に開催した。今回は、テーマを「震災 5 年目の『まちびらき』」として、岩手県宮古市から松本勇毅さん（たろう観光ホテル代表取締役）はじめ、3 人の方をお招きして、被災時の状況や復興の状況、防災のまちづくりなどについて報告していただき、引き続いてさらに議論を深めるためにパネルディスカッションを行った。概要は以下のとおりである（詳細は当センターＨＰに収載）。

連続シンポジウム「3.11 東日本大震災から高知は学ぶ（第 5 回）　2016 年 2 月 20 日（土）
於・高知商工会館

テーマ：「震災 5 年目の『まちびらき』」
報告①　松本　勇毅（株式会社たろう観光ホテル 代表取締役）
報告②　高峰　聡一郎（岩手県宮古市都市整備部長）
報告③　山崎　正幸（岩手県宮古市危機管理監危機管理課主査）
パネルディスカッション
パネラー：松本勇毅・高峰聡一郎・山崎正幸
坂本茂雄（高知市下地地区減災連絡会事務局長・自治研究センター理事）
コーディネーター：友永公生（黒潮町役場・自治研究センター研究員）

※要旨：3 本の報告については、いずれも岩手県宮古市の方にお願いし、復興へのとりくみや当時の思いを語っていただいた。まず、津波で被災した同市の震災遺構「たろう観光ホテル」の経営者・松本勇毅氏は、ホテルの 6 階から津波が押し寄せる様子を撮影した映像を紹介し、「逃げる習慣や怖さを伝えていくためには、本物の素材を通して伝えることが重要」と経験を語った。次に、高峯聡一郎氏は、防潮堤に加え山林を切り開いて沿岸の住民らが高台移転を進めたり、国道をかさ上げしていることなど

宮古市の復興状況を紹介。「今後高知県を襲う災害がどのようなであるかを事前にしっかりと想像しておくこと。そのうえで、住民の皆さんとじっくり話し合い、対策をどのようにするのかを想像する、この 2 つの想像が、事前復興を考えるにあたっては非常に重要」と述べた。また、山崎正幸氏は、早期の復興などに向けた自主防災組織の重要性について触れ、高知出身の寺田寅彦氏の「天災は忘れたころにやってくる」との言葉を引用し、「防潮堤とか防災無線とか、防災上のいろんなとりくみをしても万全ということではなく、逆にそのことに安心して犠牲者が増えてしまう危険性もあるわけで、災害の記憶と記録をしっかりと伝承していくことが必要。人間社会の方で、日ごろから減災にとりくんでいれば、森・川・海はいつまでも恵みの場所であり続ける」と述べた。

１．今回のシンポジウムの内容についてご感想をお聞かせください。

①報告１（松本勇毅氏）

・貴重な映像をありがとうございます。
　やはり、大変ショッキングで心が痛みます。
・被災直後の行動に感動しました。
・生き残ることの大切さが大事ですね。
・最初のビデオ・・・絶句ですネ。本当におそろしいと思いました。
・ホテルの経営頑張ってほしいです。
・教訓の伝承を引き続きお願いします。
・4 年前に田老を訪問した時、あの防潮堤が、どのように破壊されたのだろうかと思っていましたが、映像を見て良くわかりました。
・津波の速さが、想定よりはやいのが良く分かった（ビデオ）
　25～30ｋｍと言われているＮＨＫのスピードではない。
　ＮＨＫに訂正放送をしてもらわないといけない。

②報告２（高峯聡一郎氏）

・震災の前にできる事　※事前復興と言うことばを学習させて頂き良かった！
・田老地区の高台移転は参考になる（ひとつの手段として）
・災害を想像する事は大切
・内容が下知地区で行っている事前復興計画の参考になりました。
・行政の立場から、クリアに話してもらってて良かった。
・昔の文献とかを、よく知ることが大事だと思いました。
・宮古市の３冊のパンフが立派すぎて…補助金？もっと利用できるところにお金をかけたらいいのに…とも思う。
・現在の取り組みの問題点を具体的に説明していただければもっと良かった。
・遡上 40.5mに驚き、災害を想像し、対等の創造に共感です。

③報告３（山崎正幸氏）

・防災は「人の行動」のはなし
・自主防災組織の活動（現在、居住している地区について）の参考となりました。
・地域コミュニティの維持も大切
・伝承する事が大切
・伝承について、昔の人の言っていることを、これから先も伝えて行くことを肝に銘じます。
・様々な角度から多くの情報を発表してもらって、こんな人がいれば、地域防災も安心だなと思いました。いろんな活動をされている…。
・現在の取り組みの問題点を具体的に説明していただければもっと良かった。
・被災地の取り組みから、今進めている防災・減災・事前復興への取り組みの検証をしていきたいと思います。ありがとうございました。

⑤パネルディスカッションについて
・事前に質問を受け付けたことによって、質問をうまくつなげて、会場からムダな質問がなくてスムーズに流れて良かった。
・「事前復興」を掘り下げることにはあまりつながらなかったと思います。ただし、パネラーの話はそれぞれおもしろかったです。
・津波に襲われた時に記憶が無くなるという体験、「そうなのか…」と思わされました。
・松本社長の「5 年間がものすごく長かった」というのが印象的でした。

④シンポジウム全体について
・途中退席ですが、勉強になりました。ありがとうございました。
・内容の濃いシンポジウムでした。防災意識がより前進しました。
・震災から５年。いろいろイベントがありますが、改めて再確認になりました。ありがとうございます。
・「発生当時のことは覚えていない」という経験者でないと語ることのできない貴重な話を聞くことができ良かったです。
・今後も、その人（経験者）でないと語ることができない企画をお願いします。

２．今後、継続してシンポジウムを行うに当たって取り上げたら良いと思われる内容、講師等についてご意見をお聞かせください。
・原点に還り「生き残る」＝「命を守る」ということについて深く議論してみてはどうでしょうか。
・引き続き、被災地での実践例をお願いします

（３）セミナーについては、毎年講師をお願いしており連続で 6 回目となる、哲学者の内山 節さんを今回もお招きし、「主権は誰のものか」との演題で講演していただいた。概要は以下のとおり（詳細については当センターＨＰに収載）である。

セミナー：「主権は、だれのものか」　2016 年 1 月 20 日（水）

於・高知共済会館

講師：内山　　節（哲学者）

※要旨：内山氏は冒頭、「これまでの歴史の中で、『国民主権』というものが果たしてあったのか」という問いから話を始め、「長い歴史からすると『国民主権』などというのは幻想であり欺瞞でしかないのだが、しかしそれでもその時の政治状況に対応し、権力の暴走を防ぐためには、私たちは絶えず『国民主権』を主張し続けないといけない」と訴えた。また、住民が主体的に地域づくりをしている事例として、自身が生活拠点にしている群馬県上野村を紹介し、木質ペレットや小水力発電などを利用して村の電気を自給しようとしていることなどを挙げて、「自然や人間同士の関係の中で、村がどうあったらいいかを住民が考え、村政を引っ張っている」と説明した。そのうえで、国民の主権は本来「人や自然が結びつく中でつくられる」ものだが、現状は「政治家が公約になかったことで暴走している」と指摘。安保法制や原発に反対する国民が多いのに、それらを推進する安倍政権の支持率が高いことについて、「根底にあるのは、今の生活から大きく変えたくない、今の自分を守りたいという保守主義の表れ」であり、一見矛盾しているようだが、何ら不思議な現象ではないと解説。最後に、「今は、近代が作ってきたいろいろなものを根本から作り直さないといけない難しい時期にある。そういう状況というのは何が起こっても不思議ではなく、一面では面白くなってきているのだけれども、もう一方では危険な面もあるという、その両方が同時に起きている時代を私たちは生きている」のだと締めくくった。

３．調査・研究活動について

（１）「高知の介護保険地域ケアシステムの実態調査研究」の問題意識は、「高齢化社会の到来に伴う介護問題の解決には、介護保険制度だけで対応することは不可能であり、これを補完する仕組みを含めた地域におけるケアシステムが必要」であることから、現行の介護へ県制度の問題点を浮き彫りにすることを目的としてアンケート調査を行うべく、この間、議論を行ってきていた。その結果、アンケート内容について質問項目等が固まったことから 2014 年 11 月から 2015 年 1 月にかけて約 1 万通のアンケートを送付した。そのうち、一般高齢者からは 2,529 通、要支援高齢者からは 623 通の回答が寄せられたことから、2015 年 5 月を回収の最終期限とし、研究チーム会議の座長である高知県立大学・田中きよむ教授に集約をお願いした。この集約結果をもとに 4 回の研究チーム会議を開催（2015 年 12 月 12 日・2016 年 1 月 16 日・同 2 月 27 日・同 3 月 15 日）して結果の分析を行うとともに、どのような形で公表するか、さらには政策提言のような形にまで持っていくことが可能か否か等についての議論を行った。

《アンケート送付先等》

【一般高齢者】回収 2,529

高知県高齢・退職者団体連合	600
高知県老人クラブ連合会	3,175
高知市老人クラブ連合会	900
計	4,675

【要支援高齢者】回収 623

高知県通所サービス事業所連絡協議会	675
高知県介護支援専門員連絡協議会	3,165
高知市介護支援専門員連絡協議会	930
計	4,770

（２）研究体制

研究員	田中　きよむ	（高知県立大学　社会福祉学部教授）
	後藤　由美子	（高知県立大学　社会福祉学部准教授）
	戸田　靖	（高知市介護保険課）
	中山　順子	（中土佐町健康福祉課・地域包括支援センター）
	津野　美由紀	（中土佐町社会福祉協議会・デイサービスセンター）
	濱野　安一	（前高退連事務局長）
	折田　晃一	（高知県自治研究センター副理事長）
事務局	石川　俊二	（高知県自治研究センター）

（３）活動経過

12 月 12 日（土）　第 12 回研究チーム会議＜自治労会館＞

1月 16 日（土）　第 13 回研究チーム会議＜自治労会館＞
2月 27 日（土）　第 14 回研究チーム会議＜自治労会館＞
3月 15 日（土）　第 15 回研究チーム会議＜自治労会館＞

（2）「中山間地域における内発的発展地域産業モデル研究」については、具体の進捗は図ることが出来なかった。実施に当たっては、高知銀行地域経済振興財団との共同研究とすることおよび学識経験者の助言を受けながら進めることとしていたのだが、高知銀行の担当者の異動や学識経験者との調整に時間がかかっていることが、その要因である。

（3）「高知市における中心市街地再生のための施策についての研究」については、これまで高知大学・鈴木啓之教授を座長とする研究チーム会議で議論を行いつつ、加賀野井地区と新屋敷 2 丁目で住民アンケートを実施し、研究の対象地区としては「新屋敷 2 丁目」に決定してきた。その後、研究チーム会議として、対象地区の抱える固有の課題や問題点等に焦点を当て、それらの解決方策の検討を行う中で、施策の優先度や選択肢の議論の段階で進捗が止まっているのが現状である。このため、2015 年度の最終的な確認としては、研究チーム会議はいったん中断し、コアメンバーで今後の研究の方向性等について再構築の議論を行うこととしている。

４．組織運営について

１．2015 年度定時総会の開催

（１）日　　時　2015 年 6 月 13 日（土）　午後 1 時～2 時

（２）場　　所　自治労会館 3 階会議室

（３）出席状況　会員総数 70 名（団体会員 28 名、個人会員 42 名）中

58 名（団体会員 24 名、個人会員 34 名）出席

うち 13 名（団体会員 8 名、個人会員 5 名）書面表決書

21 名（団体会員 11 名、個人会員 10 名）委任状

（４）議　　事

第 1 号議案　2014 年度事業報告

第 2 号議案　2014 年度収支報告及び監査報告

2. 理事会の開催について

（１）2015 年度第 1 回理事会

①　日　　時　2015 年 5 月 23 日（土）　午前 10 時 00 分～11 時 45 分

②　場　　所　高知商工会館　福の間

③　出席状況　理事・監事 15 名中 10 人出席

④　議　　事

第 1 号議案　2014 年度事業報告の承認について

第 2 号議案　2014 年度貸借対照表・正味財産増減計算書、財産目録の承認について

第 3 号議案　2015 年度予算の様式変更について

第 4 号議案　連続シンポジウム「少子化の流れに抗して」の今後の企画に関するプロジェクトチームの発足について

（２）2015 年度第 2 回理事会

①　日　　時　2015 年 11 月 7 日（土）　午前 10 時 00 分～11 時 30 分

②　場　　所　自治労会館 2 階会議室

③　出席状況　理事・監事 15 名中 12 名出席

④　議　　事

第 1 号議案　事業区分の変更について

第 2 号議案　2015 年度収支予算書変更の承認ついて

第 3 号議案　2015 年度研究調査事業の進捗状況等ついて

（３）2015 年度第 3 回理事会

①　日　　時　2016 年 3 月 12 日（土）　午後 2 時～3 時 45 分

②　場　　所　高知商工会館

③　出席状況　理事・監事 15 名中 10 名

④　議　　事

第 1 号議案　2016 年度事業計画（案）について
第 2 号議案　公益社団法人移行 5 周年記念事業の変更について
第 3 号議案　2016 年度収支予算書（案）について
第 4 号議案　2016 年度第 1 回理事会の開催の日程について
第 5 号議案　2016 年度定時総会の日程について
第 6 号議案　新規会員の承認について

公益社団法人　高知県自治研究センター

貸借対照表

平成　28 年　 3 月　31 日　現在

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金・預金	2,026,497	3,300,646	△ 1,274,149
流動資産合計	2,026,497	3,300,646	△ 1,274,149
2．固定資産			
(1)特定資産			
退職給付引当資産	1,644,000	1,242,600	401,400
事業積立預金	800,000	800,000	0
特定資産合計	2,444,000	2,042,600	401,400
固定資産合計	2,444,000	2,042,600	401,400
資産合計	4,470,497	5,343,246	△ 872,749
Ⅱ　負債の部			
1．流動負債			
未払金	87,557	119,026	△ 31,469
預り金	61,565	79,585	△ 18,020
流動負債合計	149,122	198,611	△ 49,489
2．固定負債			
退職給付引当金１	1,479,600	1,285,470	194,130
退職給付引当金２	164,400	142,830	21,570
固定負債合計	1,644,000	1,428,300	215,700
負債合計	1,793,122	1,626,911	166,211
Ⅲ　正味財産の部			
1．一般正味財産	2,677,375	3,716,335	△ 1,038,960
（内特定資産への充当額）	(2,444,000)	(2,042,600)	(401,400)
正味財産合計	2,677,375	3,716,335	△ 1,038,960
負債及び正味財産合計	4,470,497	5,343,246	△ 872,749

公益社団法人　高知県自治研究センター

貸借対照表内訳表

平成　28 年　 3 月　31 日　現在

（単位：円）

科　　目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合　計
Ⅰ　資産の部				
１．流動資産				
現金・預金	2,026,497	0	0	2,026,497
流動資産合計	2,026,497	0	0	2,026,497
２．固定資産				
(1) 特定資産				
退職給付引当資産	1,479,600	164,400	0	1,644,000
事業積立預金	800,000	0	0	800,000
特定資産合計	2,279,600	164,400	0	2,444,000
固定資産合計	2,279,600	164,400	0	2,444,000
資産合計	4,306,097	164,400	0	4,470,497
Ⅱ　負債の部				
１．流動負債				
未払金	87,557	0	0	87,557
預り金	61,565	0	0	61,565
流動負債合計	149,122	0	0	149,122
２．固定負債				
退職給付引当金１	1,479,600	0	0	1,479,600
退職給付引当金２	0	164,400	0	164,400
固定負債合計	1,479,600	164,400	0	1,644,000
負債合計	1,628,722	164,400	0	1,793,122
Ⅲ　正味財産の部				
１．一般正味財産	2,677,375	0	0	2,677,375
（内特定資産への充当額）	(2,279,600)	(164,400)	(0)	(2,444,000)
正味財産合計	2,677,375	0	0	2,677,375
負債及び正味財産合計	4,306,097	164,400	0	4,470,497

公益社団法人　高知県自治研究センター

貸借対照表附属明細書

財務諸表の注記に記載しているため、附属明細書の記載は省略しています。

公益社団法人　高知県自治研究センター

正味財産増減計算書

平成27年 4月 1日 から 平成28年 3月31日 まで

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1)経常収益			
①特定資産運用益	(393)	(0)	(393)
特定資産運用益	393	0	393
②受取会費	(1,512,000)	(1,499,000)	(13,000)
正会員受取会費	1,512,000	1,499,000	13,000
③受取補助金等	(350,000)	(0)	(350,000)
受取民間助成金	350,000	0	350,000
④受取寄付金	(5,800,000)	(5,800,000)	(0)
受取寄付金	5,800,000	5,800,000	0
⑤雑収益	(539)	(1,788,137)	(△ 1,787,598)
受取利息	539	794	△ 255
前期損益修正益		1,787,343	△ 1,787,343
経常収益計	7,662,932	9,087,137	△ 1,424,205
(2)経常費用			
①事業費			
事業経費	(7,279,463)	(8,307,540)	(△ 1,028,077)
給料手当	2,917,436	2,830,244	87,192
退職給付費用	194,130	167,130	27,000
福利厚生費	497,388	442,522	54,866
旅費研究費	425,268	1,779,974	△ 1,354,706
通信運搬費	120,563	106,837	13,726
消耗品費	0	55,778	△ 55,778
印刷製本費	845,082	978,398	△ 133,316
事務賃借料	510,991	619,651	△ 108,660
諸謝金	733,907	746,180	△ 12,273
新聞図書費	35,456	70,402	△ 34,946
研修会議費	999,242	248,281	750,961
前期損益修正損	0	262,143	△ 262,143
事業費計	7,279,463	8,307,540	△ 1,028,077
②管理費			
給料手当	324,159	314,472	9,687
退職給付費用	21,570	18,570	3,000
福利厚生費	55,290	49,169	6,121
会議研修費	404,981	488,312	△ 83,331
通信運搬費	41,344	43,242	△ 1,898
消耗品費	41,510	23,906	17,604
事務賃借料	220,375	265,564	△ 45,189
支払手数料	313,200	108,000	205,200
前期損益修正損	0	1,975,170	△ 1,975,170
管理費計	1,422,429	3,286,405	△ 1,863,976
経常費用計	8,701,892	11,593,945	△ 2,892,053
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,038,960	△ 2,506,808	1,467,848
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,038,960	△ 2,506,808	1,467,848
2．経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 1,038,960	△ 2,506,808	1,467,848
当期一般正味財産増減額	△ 1,038,960	△ 2,506,808	1,467,848
一般正味財産期首残高	3,716,335	6,223,143	△ 2,506,808
一般正味財産期末残高	2,677,375	3,716,335	△ 1,038,960
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	2,677,375	3,716,335	△ 1,038,960

公益社団法人　高知県自治研究センター

正味財産増減計算書内訳表

平成27年 4月 1日 から 平成28年 3月31日 まで

（単位：円）

科　　目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合　計
Ⅰ　一般正味財産増減の部				
1．経常増減の部				
(1) 経常収益				
①特定資産運用益	(362)	(31)	(0)	(393)
特定資産運用益	362	31	0	393
②受取会費	(90,141)	(1,421,859)	(0)	(1,512,000)
正会員受取会費	90,141	1,421,859	0	1,512,000
③受取補助金等	(350,000)	(0)	(0)	(350,000)
受取民間助成金	350,000	0	0	350,000
④受取寄付金	(5,800,000)	(0)	(0)	(5,800,000)
受取寄付金	5,800,000	0	0	5,800,000
⑤雑収益	(0)	(539)	(0)	(539)
受取利息	0	539	0	539
経常収益計	6,240,503	1,422,429	0	7,662,932
(2) 経常費用				
①事業費				
事業経費	(7,279,463)	(0)	(0)	(7,279,463)
給料手当	2,917,436		0	2,917,436
退職給付費用	194,130		0	194,130
福利厚生費	497,388		0	497,388
旅費研究費	425,268		0	425,268
通信運搬費	120,563		0	120,563
印刷製本費	845,082		0	845,082
事務賃借料	510,991		0	510,991
諸謝金	733,907		0	733,907
新聞図書費	35,456		0	35,456
研修会議費	999,242		0	999,242
②管理費		1,422,429	0	1,422,429
給料手当		324,159	0	324,159
退職給付費用		21,570	0	21,570
福利厚生費		55,290	0	55,290
会議研修費		404,981	0	404,981
通信運搬費		41,344	0	41,344
消耗品費		41,510	0	41,510
事務賃借料		220,375	0	220,375
支払手数料		313,200	0	313,200
経常費用計	7,279,463	1,422,429	0	8,701,892
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 1,038,960	0	0	△ 1,038,960
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,038,960	0	0	△ 1,038,960
2．経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 1,038,960	0	0	△ 1,038,960
当期一般正味財産増減額	△ 1,038,960	0	0	△ 1,038,960
一般正味財産期首残高	3,716,335	0	0	3,716,335
一般正味財産期末残高	2,677,375	0	0	2,677,375
Ⅱ　指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	2,677,375	0	0	2,677,375

公益社団法人　高知県自治研究センター

正味財産増減計算書附属明細書

財務諸表の注記に記載しているため、附属明細書の記載は省略しています。

公益社団法人　高知県自治研究センター

財産目録

平成　28 年　 3 月　31 日　現在

（単位：円）

科目	場所等	物量	使用目的等	金額
Ⅰ 資産の部				
１．流動資産				2,026,497
現金・預金				
普通預金	四国労働金庫　高知支店 普通預金　3377677		運転資金として保有	2,026,497
流動資産合計				2,026,497
２．固定資産				2,444,000
(1) 特定資産				
退職給付引当資産	四国労働金庫　高知支店 定期預金　4294390		公益目的事業の退職給付引当金見合い資金として管理している。	1,479,600
			法人会計の退職給付引当金見合い資金として管理している。	164,400
事業積立預金	四国労働金庫　高知支店 普通預金　4024545		特定費用準備資金であり公益社団法人移行５周年記念事業に使用するため規定により積立、管理している。	800,000
特定資産合計				2,444,000
固定資産合計				2,444,000
資産合計				4,470,497
Ⅱ 負債の部				
１．流動負債				
未払金	株式会社英光事務機		パフォーマンスチャージ代金の未払い分	13,370
	日本郵便株式会社		後納郵便代金の未払い分	272
	厚生労働省		社会保険料３月分	35,770
	株式会社朝日ネット		プロバイダ料の未払い分	1,620
	ＮＴＴファイナンス株式会社		電話料金の未払い分	6,689
	理事		行動旅費の未払い分	13,360
	従業員		残業手当の未払い分	16,476
預り金	従業員		従業員から預かった社会保険料	35,409
	従業員		従業員から預かった源泉所得税	14,520
	従業員		従業員から預かった雇用保険料	11,636
流動負債合計				149,122
２．固定負債				
退職給付引当金１			公益目的事業の従業員に対する退職金支払いに備えたもの。	1,479,600
退職給付引当金２			法人会計の従業員に対する退職金支払いに備えたもの。	164,400
固定負債合計				1,644,000
負債合計				1,793,122
正味財産				2,677,375

財務諸表に対する注記

1．重要な会計方針

（1）引当金の計上基準

退職給付引当金は、社内規定による期末現在の要支給額により計上しております。

（2）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式により処理しております。

2．会計方針の変更

事業区分の変更について

公益目的事業の公1「資料センターとしての事業」、公2「研究事業及び教育、調査活動の事業」、公3「編集・刊行を行う事業」、「公益目的事業共通」の4区分を全て共通の目的を達成する手段と位置付けられることから、公1「研究事業及び教育、調査活動の事業」として1つに統合しております。

3．基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

（単位：円）

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付引当資産	1,242,600	401,400	0	1,644,000
事業積立預金	800,000	0	0	800,000
合計	2,042,600	401,400	0	2,444,000

4．基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

（単位：円）

科目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
特定資産				
退職給付引当資産	1,644,000		(1,644,000)	
事業積立預金	800,000		(800,000)	
合計	2,444,000	(0)	(2,444,000)	(0)

5．補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりです。

（単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
2015年度研究助成費	（一財）自治労会館	0	350,000	350,000	0	
合計		0	350,000	350,000	0	

監査報告書

公益社団法人　高知県自治研究センター
理事長　筒井　早智子　殿

私たち監事は、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

１．監査の方法及びその内容

各監事は、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び事務局からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

２．監査意見

(1)　事業報告等の監査結果

一　事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二　理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2)　計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成28年4月30日

公益社団法人　高知県自治研究センター
監　事　　國弘　　昭

公益社団法人　高知県自治研究センター
監　事　　津野　　誠

高知県自治研究センター2015年度会員

団体会員

1	高知県職労
2	高知市職労
3	土佐清水市職労
4	宿毛市職労
5	須崎市職労
6	土佐市職労
7	南国市職労
8	香南市職労
9	黒潮町職労
10	中土佐町職労
11	日高村職労
12	いの町職労
13	仁淀川町職労
14	馬路村職労
15	共済労組
16	仁淀衛生事務労組
17	国保労組
18	住宅供給公社労組
19	建設技術公社労組
20	高知市指導員労組
21	須崎市民保労組
22	高知競輪競馬労組
23	県本部書記労
24	自治労高知県本部
25	連合高知連合会
26	全水道高知水道労組
27	黒潮町
28	防治会

個人会員

1	畦地和也
2	石川俊二
3	折田晃一
4	片岡亘
5	川田勲
6	川﨑敬子
7	坂本茂雄
8	筒井早智子
9	堀洋子
10	山﨑秀一
11	山村一正
12	山本晉平
13	山本洋子
14	濱野安一
15	諸石恵子
16	田尾隆
17	福永明
18	津野誠
19	中山久美
20	森下乃文
21	児嶋鈴香
22	高橋立一
23	中平正幸
24	弘井貴之
25	岡林俊司
26	間嶋祐一
27	金子伸
28	岡崎邦子
29	武内則男
30	竹村暢文
31	田鍋剛
32	中山研心
33	宮本博行
34	森幹夫
35	石井孝
36	関隆
37	矢野佳仁
38	東森歩
39	山下久人
40	國弘昭
41	山中誠
42	西岡信喜